

# 富医ニュース

No.581 令和2年3月1日

一般社団法人 富田林医師会

会長 宮田 重樹

〒584-0082 富田林市向陽台1丁目3-38

TEL.(0721)29-1210 FAX.(0721)28-0858

E-mail: mail@tondabayashiishikai.jp

## 調 整 日

2月分 3月6日(金)  
PM3:00まで

3月分 4月8日(水)  
PM3:00まで

## 3 月 の 予 定

- 6日(金)・調整日  
(レセプト提出日)
- 9日(月)・会長副会長連絡会議
- 11日(水)・救急災害医療委員会  
・病診連携会
- 13日(金)・理事会
- 16日(月)・訪問看護ステーション  
運営委員会
- 19日(木)・学術講演会
- 23日(月)・改定点数説明会
- 24日(火)・感染症対策委員会  
・予防接種研修会
- 25日(水)・広報調査委員会
- 27日(金)・広報調査委員会  
(校正)
- 31日(火)・休日診療委員会

## 新 年 会

令和2年1月25日(土)帝国ホテル大阪で富田林医師会新年会が開かれました。当日の参加者は45名でした。

午後6時から赤松副会長の司会で始まり、宮田会長から新年の挨拶と、今年度の後期高齢者の特定健診にフレイルの問題が追加になり、今後は疾患予防の重要性のお話がありました。続いて、富田林病院、PL病院の先生方からのご挨拶がありました。富田林病院院長の宮崎俊一先生からは富田林病院の建て替え工事の近況報告があり、工期がやや早くなっていて、1期工事が今年10月に完成予定とのことでした。また、昨年から新しくPL病院の院長に就任された進藤先生からは院長交代のご挨拶がありました。その後、司会進行は赤松副会長から藤岡洋副会長に交代となり、各会員の先生方の近況や今年の抱負などの報告がありました。各先生同士の会話ははずみ、楽しい情報交換の場となりました。最後に児嶋副会長からの締めの挨拶があり、

令和2年度は周年行事が多いため、各会員のご協力のお願ひがあり、盛会のうちにお開きとなりました。来年もご多忙な事とは思われますが多くの会員の先生方が参加され新年会がさらに盛会になることを願っております。



## 令和2年度改定点数説明会開催

令和2年度4月実施の診療報酬改定点数説明会を下記の日程で開催します。万障お繰り合わせの上ご参加下さい。

★日時 令和2年3月23日(月) 13:30から

★場所 医師会 大会議室

## 令和2年2月定例理事会

日 時 令和2年2月14日(金)

13:30より

場 所 医師会 特別会議室

### 会長挨拶

### 報告事項

- 1) 南河内病院病床調整会議の報告
- 2) 保険証の本人確認徹底
- 3) PCB(ポリ塩化ビニル)使用の医療機器廃棄に手続き必要、注意。
- 4) 応召義務について
- 5) 風しんの追加的対策(クーポン事業)について
- 6) 医師会事務局発電装置に関して
- 7) 新型コロナウイルス感染症に関して

### 協議事項

- 1) 入退会の件
- 2) 太子町、河南町及び千早赤阪村介護認定審査会委員の任期満了に伴う推薦依頼について、再任期中で推薦
- 3) 3/4 日本医師会主催「都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会」藤岡 洋先生出席
- 4) 3/17 郡市区等医師会社会保険担当理事連絡協議会(改定点数説明会)宮田先生出席
- 5) 3/23 診療報酬改定点数説明会開催
- 6) 3/24 予防接種説明会開催について
- 7) 4月から羽曳野産業保健センター担当医師会となる
- 8) 2/20の学術講演会より歯科医師会、薬剤師会の参加も呼び掛ける

## 富田林医師会予防接種研修会のご案内

日 時：令和2年3月24日(火) 14:00～15:30

場 所：医師会 大会議室

内 容：『確実に間違いなく予防接種を行うために』

講師 ふじおか小児科 藤岡 雅司先生

※本講演は、大阪府医師会生涯研修システム登録しておりますので、生涯教育チケットをご持参下さい。生涯教育制度1.5単位、取得カリキュラム「3」、「9」、「11」を申請中です。また、大阪府医師会指定学校医認定研修の申請もしております。

## 富田林医師会病診連携会

日 時：令和2年3月11日(水) 14:10～15:10

場 所：PL病院 2階講堂

【教育講演】14:10～14:40

『当院での腹腔鏡手術の現状』

PL病院 外科副部長 中澤 一憲先生

【ディスカッション】14:40～15:10

『腹腔鏡手術の工夫』

PL病院 外科部長 須浪 毅先生

済生会富田林病院 外科部長 辻江 正樹先生

PL病院 外科副部長 中澤 一憲先生

※大阪府医師会生涯研修単位(CC:28発熱、53腹痛)

## 富田林医師会学術講演会

日 時：令和2年3月19日(木) 14:00～15:00

場 所：医師会 大会議室

【特別講演】

座 長 とねクリニック 刀襦 央朗先生

『膵癌の現状、早期発見と治療について』

近畿大学医学部 消化器内科

講師 竹中 完先生

膵臓癌は予後不良疾患であり、死亡者数は年々増加し、2030年には全世界で死亡原因第2位になるとも言われています。予後が悪い理由の一つに早期診断が難しいことが理由に挙げられ、20mm以下で診断されたとしてもStage 4である症例も存在します。根治可能な膵臓癌は、10mm以下で診断するか、上皮内癌と言われる画像検査で直接は指摘できない段階で診断を行うしかありません。背部痛や画像検査で指摘される膵腫瘍が膵臓癌であれば、ほぼ全例が根治困難な状況です。すなわち大学病院を受診される患者様の中には上述した上皮内癌や10mm以下膵臓癌の患者様はほぼおられないのが現状です。それではこれらの患者様はどこにおられるのか。その多くが開業医の先生がたに診察いただいている患者集団の中に潜んでいます。どのようにしてこれらの患者様を抽出すればよいのか。本講演では膵癌の現状に加え、その辺りの早期膵癌拾い上げに関するお話をさせていただきます。

※本会は生涯教育制度1.0単位を申請中です(カリキュラムコード15・22)。

## 専門医より一言

糖尿病性腎症へのアプローチ

市立藤井寺市民病院 内本 定彦先生

糖尿病患者では、慢性合併症の予防を介して、そのQOLを改善し寿命を伸ばすことが重要である。特に糖尿病患者では、腎症による死亡は3.5%程度で多くはないが、腎症有する患者では大血管障害を来しやすく心血管死の有意に高いことが知られ、また透析導入による医療費の増大やQOLを悪化させることが知られている。一方糖尿病性腎症を有する患者は、2型糖尿病患者の4割にみられることが報告されており、早期発見・早期介入が必要である。そのためには日常臨床において、尿アルブミンの測定が重要である。厳格な血糖管理は、種々の報告において蛋白尿の進展予防・改善に有効であり、腎不全や透析

導入への進展阻止には、厳格な血糖管理のみでは十分ではない。ACEI/ARBによる血圧管理や減塩指導を含む生活習慣への介入の重要性も示され、早期発見・早期介入、厳格な血糖管理、ACEI/ARBによる血圧管理により予後が改善される。

糖尿病患者の血糖管理をどのように行うかについては、従来からHbA1c7%未満が目標とする厳格な血糖管理が推奨されている。一方薬剤選択に関しては、SGLT2阻害薬やインクレチン関連薬が腎症の進展予防ならびに改善に有用であるという報告が最近多数なされ、腎症治療において重要な位置づけがなされている。特にSGLT2阻害薬は、蛋白尿の進展予防や改善のみならず、クレアチニンの倍化や透析導入、腎死に対しても有用であることが報告されている。またメタ解析において、心血管疾患の有無、蛋白尿の有無、eGFRのレベルによらず腎保護効果を有し、かつ副作用も少ないことが報告され、腎症進展予防という面からはSGLT2阻害薬を積極的に使用することが推奨される。

## 山村 友良先生 を偲んで

あまりにも突然の訃報でした。胸がいっぱいになり、言葉も出て来ませんでした。

医師会の生き字引、そのもの、としか言いようのない存在でした。富田林医師会の30周年、50周年、60周年の各記念誌に「医師会沿革」をわかり易く記載いただいたのは、全て先生でした。

月1回発行の富医ニュースは580号を数える現在ですが、その第1号は昭和50年6月に発行され、手書きの1頁のニュースですが、ここに先生の筆跡をたどる事が出来ます。以来、数年前まで広報調査委員会の委員として当会の歴史を見守りつづけていただいていたました。

富田林病院設立に際しては、昭和46年から52年までの6年間にわたり市病院対策特別委員会の中心的委員としてご奮闘いただき、52年10月8日に落成式が行われ、10月11日より診療が開始されています。

個人的には、父親のような存在でした。問題がおきれば、いつも真っ先に相談にのっていただきました。

医師会長としての6年間には、崩壊していた事務局の再建、新医師会館建設の着手などの難問に直面しましたが先生のアドバイスで無事乗り切る事ができました。小さな失敗は数えきれませんでしたが、その都度「よろしやん。」と明るくなぐさめていただき、再び前を向く事ができました。

一番印象深い思い出は、レセプトオンライン省令の改正を二人三脚で勝ち取った事です。当時並行して国を相手の法廷闘争もしていましたがその弁護団の団長さんは、省令を改正させたという快挙は見た事が無い、と驚いておられました。

富田林という片田舎から、「文書を送付するだけ」、とい

うスマートな方法でした。衆参の国会議員721名に省令の是非を問う文書を送付し、解答の有無やその内容は全国946の郡市区医師会に報告するとの予告も付記しました。少し度胸を要する仕事ですが、先生に同意していただき、安心して実施できました。封書を開封した国会議員が、「何だんねん、これ。富田林で、どこの田舎でんねん。」といぶかしがるやろなと申され、二人して大笑いしたのも楽しい思い出です。

51名の議員から解答を得ましたが、その中には鳩山由起夫氏からのものも有りました。各郡市区医師会から寄せられた膨大なアンケートの回答文書を20枚にまとめ、各郡市区医師会に送付し、その抜粋の2枚は国会議員への封書に同封いたしました。気が遠くなるような事務作業でしたが、今は亡き太子町の中村洋先生にも手伝っていただき、事務局の堀さん、紀川さんにも奮闘していただきました。

2009年8月の総選挙の前には、この省令に対する各政党の対応をマニフェストからひろい上げ一覧表を作成し、全国郡市区医師会に二度送付しました。

これらの作業の結果かどうかは不明ですが、この時の総選挙では、医師の6割が民主党に投票した、と言われていています。民主党に政権交代し、平野官房長官から指示を受けた若手国会議員が改正省令を作成しました。改正省令の発表の20日も前にこの若手議員から医院に電話があり、改正作業を終えた由の連絡がありました。但し、この事は誰にも口外しないように、とのことでした。直ちに先生に連絡させていただいたのはもちろんの事ですが、実際に改正省令を見るまで一抹の不安が有りました。口外した事が露顕した時は、「口外はしていません。メールを送っただけです。」と吉本風の言い訳をするつもりでした。

最後にお会いしたのは3年前でした。当時松江市に居住していた娘に境港でとれたカニを送ってもらい、余まったので、と、下肢骨折後自宅療養しておられた先生宅を訪問させていただきました。少し歩けるほどにまで回復されておられて、医師会の楽しかった思い出話をいつもの笑顔で語って下さいました。

5か月程前に、医師会と市役所との古いとり決めについて電話で質問させていただきました。やはり生き字引でした。記憶に残る範囲でいねいにお答えいただきました。本年5月に予定されている富田林医師会70周年記念式典にはごいっしょできましたら、と申しました所、「いやあ。…」とお答えいただきましたが、今回のような事は想像もしていませんでした。

遺影の中の先生はいつものようにおだやかに微笑まれ、視線は全てを照らし出すかの如く光溢れていました。

久しぶりに、無言でしたが対話をさせていただきました。ふと気がつくと、あとから焼香台に並んだ人達の姿は見当たらず、順を待つ人達の列が少し乱れてしまっていました。

山村 友良先生 合掌(森口英世)

## リヤカー

富田林病院の近くにイオンがあるが、その横に国道309号線が走っている。なんとなく上から覗いていると側道におもしろい道路標識が立っていた。309号線に人や自転車が進入してはいけないのは分かるが、上の丸の中には珍しい乗り物の絵が描かれている。リヤカーである。ボクもこの富田林に20年以上住んでいるが、この境界でリヤカーを見たことがない。



ちなみにリヤカーだが、純粋な英語ではない。1921年頃、海外からサイドカーが日本に輸入された時にサイドカーとそれまでの荷車の主流だった大八車の利点を融合して、静岡県富士市青島の望月虎一が発明したらしい。サイドカー(Side+Car)にならって「後部(Rear)に位置する車(Car)」の意味でリヤカーと命名された(リアカーと表記・発音されることもある)。広辞苑でも、リヤ・カー(和製語 rear Car)自転車の後部につけたり、人が引いたりして物を運ぶのに用いる二輪車。と、書かれている。

(富田林病院皮膚科 中川浩一)

## 皮膚外科学 第2版

今回、「皮膚外科学 第2版」を上梓しました。初版から10年が経ち皮膚外科学も長足の発展を遂げました。本書は今後の皮膚外科学のさらなる発展の礎になることと思います。

さて、皮膚外科学ですが、形成外科とどう違うのかと良く訊かれます。形成外科とは体表面の異常を正常な状態にもどし、機能的にも改善されることを目標とする学問と僕は考えています。いわゆる「職人」的要素が大きいものです。一方、皮膚外科は皮膚科の知識を基盤としてその上に成立する外科手技ということで、まず、皮膚科の知識を十分に学ぶ必要があります。皮膚疾患においては、まず外科的治療が適応なのかどうかを考え、さらに術式について文献を調べ有用性・合併症なども勘案して手術にあたります。このような考えの道筋を、最新の知見を基に解説したのが本書と考えています。興味ある先生は一読いただけたら幸いです。

(富田林病院皮膚科 中川浩一)

皮膚外科学第2版 中川浩一編集代表 大原國章・伊藤孝明編集幹事 発行所:学研メディカル秀潤社 728ページ オールカラー



## 2月行事・会合

3日(月)・会長副会長連絡会議

6日(木)・調整日(レセプト提出日)

8日(土)・地域で災害医療を考える会SAYAKAホール

10日(月)・医療機関整備委員会

14日(金)・理事会

17日(月)・訪問看護ステーション運営委員会

18日(火)・学校医部会

20日(木)・学術講演会

25日(火)・休日診療運営委員会

・広報調査委員会

27日(木)・広報調査委員会(校正)

## 訃報

本会会員 山村友良先生が2月10日ご逝去されました。(享年89歳)

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

○会員数(3月1日現在) 187名

A会員 96名 B会員 90名 C会員 1名

○入会 なし

○退会 2月10日

山村 友良 B(自宅会員)死亡退会

○異動 なし

## 広報調査委員会

委員長	齊藤 謙介	副委員長	森井 秀樹
委員	青山 賢治 江村 俊也 遠山 佳樹 山本 善哉	天城 完二 奥野 敦史 中村 元	植村 匡志 尾多賀雅哉 藤岡 洋